

洗面化粧台

ミズリア・MR・J1

- 化粧台本体
GJ2NT[K]-***
J1NT1-***
GJ2HT[K]-***
J1HT1-***
GJ2FH[K]-***
J1FHT1-***

- アッパーキャビネット
VJU-***-J
- トールキャビネット
VJST[K]-***-J、VJST[K]-***DL(R)-J、
VJS-305ML(R)-J
- ミドルキャビネット
VJK-252C-J

- 対面収納キャビネット
LCWS-372SA、LCVS-372SAN、LCVB-752SA
- ランドリーキャビネット
LCVKO-***、VJK-***FL(R)-J



取付業者さまへ

- 取付けの際は必ずこの取付説明書に沿って正しく取り付けてください。
※説明書に記載されていない方法で取り付けられ、それが原因で故障を生じた場合は、商品保証の対象外となりますので十分ご注意ください。
※水栓金具、電気温水器、即湯器については、製品に同梱の説明書に沿って正しく取り付けてください。
- 同梱の取扱説明書は取付完了後、必ずお客さまにお渡しください。
※保証書（取扱説明書裏表紙）に貴店名、取付日を忘れずにご記入ください。

安全のために必ずお守りください

ここでは取付けに際して守らなければ人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。作業前にこの項目をよくお読みいただき、正しく取り付けてください。

用語および記号の説明

- 警告** .. 取付けを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。
- 注意** .. 取付けを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。
- 「してはいけません！」
(一般的な禁止記号です。)
- 「分解してはいけません！」
- 「指示通りにしなさい！」
(一般的な行動指示記号です。)

警告

- 電気工事・水道工事は関連する法令・規定にしたがって、必ず「有資格者」が行う。
※火災、感電、水漏れの原因になることがあります。
- 修理技術者以外の人は絶対に分解や修理・改造を行わない。
※ケガや故障の原因になります。

注意

- スライド蝶番の調節後は必ずAねじ、Cねじ、取付ねじが固く締め付けられていることを確認する。
※緩んでいると、蝶番が外れて扉が落下し、ケガをする恐れがあります。
- 湯水を逆に配管しない。
- 電源プラグを抜くときは、コード部分を持って引っ張らない。必ず先端のプラグを持って引き抜く。
※感電やショート・発火による火災の恐れがあります。
- 浴室内などの高温多湿な場所や水に浸かる可能性がある床面には設置しない。
※木部の膨れや変形、漏電・感電の恐れがあります。

お願い

- 直射日光やスポット照明、殺菌灯が直接当たる場所に設置しない。
※変色や変形の原因になります。
- 不陸が5mm/2mを超える場合は必ず壁を施工しなさい。
※不陸があるまま取り付けると、キャビネットがひずむ恐れがあります。
- 洗面器やカウンターの表面は傷つきやすいので注意して作業する。
・上に乗らない。
・キャビネットや工具などの固い物を上に落したり、載せてひきずったりしない。
※キズが付くと補修しても完全に元の状態には戻りません。
- 洗面化粧台の木製部分に、養生テープなどの粘着物を付着させない。
※表面材のはがれを引き起こす原因になります。
- 酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類、ベンジン、シンナー、ラッカー、アルコールなどの溶剤や油類を使用して本体を拭かない。
※変色や変形の恐れがあります。
- 壁面工事や建築仕上げ工事に使われる溶剤・接着剤・洗剤・テープ類・その他の薬品類は、容器などに記載の注意事項に従う。
※人体への悪影響や使用部材の劣化、破損の原因になります。
- 給水・給湯管および排水管が所定の位置に取り出していない場合は必ず取り出し直してください。
※取出し位置がずれたまま接続すると漏水の原因になります。

付属部品

付属部品の内容と数量が合っていることを確認してください。

●洗面化粧台

洗面器配置タイプ	扉タイプ	中央引出タイプ	フルスライドタイプ
間口750mm	GJ2NK(T)-755SY(※2)(※5) J1NT1-755S(8)Y	GJ2HK(T)-755SY(※2)(※5) J1HT1-755S(8)Y	GJ2FHK(T)-755SY(※2)(※5)
間口900mm	GJ2NK(T)-905SY(※2)(※5)	GJ2HK(T)-905SY(※2)(※5) J1HT1-905S(8)Y	GJ2FHK(T)-905SY(※2)(※5) J1FHT1-905S(8)Y
間口1000mm	GJ2NK(T)-1005SY(※2)(※5)	GJ2HK(T)-1005SY(※2)(※5)	GJ2FK(T)-1005SY(※2)(※5)
間口1200mm	GJ2NK(T)-1205SY(※2)(※5)	GJ2HK(T)-1205SY(※2)(※5)	GJ2FHK(T)-1205SY(※2)(※5)
水栓金具		1セット	
ポップアップ排水性セット		1セット	
排水トラップ		1個	
排水アダプター		1個	
排水プレート		1枚	
高さレール調整用スパーサー		1セット (1mm、2mm、3mm用：各4個)	
ホースガイド		1個 ※3 ※4 ※5	
即湯器		1個 ※4 ※5	
即湯器配管セット		1セット ※4 ※5	
固定用ねじ(トラスφ4.0×50mm)		2本	
取付説明書・取扱説明書		各1部	

- ※1=JY/E5HY/E5Y/W5Y ※2=5S(8)Y
- ※3=GR2H-905S(J)Y-A、GR2H-755E5HY(-A)、GJ2HK(T)-905SY、GJ2HK(T)-905S(8)Y、J1HT1-905S(8)Y
- ※4=SFY/JFY ※5=5S(8)FY

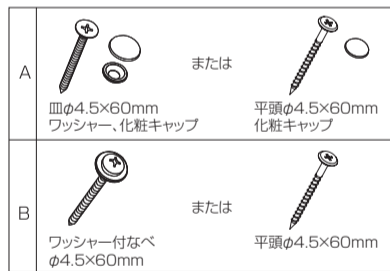
※ホース引出し式の水栓金具の場合は水受けタンク付き(品番に5SY/JY/5S(8)Yいずれかが含まれる化粧台が対象)

●アッパーキャビネット

	VJU-155(※1)C-J	VJU-755C-J	VJU-905(※2)C-J	VJU-755W-J VJU-905W-J
固定用ねじ	B:4本	B:4本	B:6本	B:6本
キャビネット連結用ねじ(トラスφ4.0×25mm)	2本	—	—	—

※1=255、305、455 ※2=1005、1205

表中A・Bは下記ねじを表します。



●ミドルキャビネット

	VJK-252C-J
棚板	1枚
棚ダボ	4個
固定用ねじ	B:4本

●対面収納キャビネット

	LCWS-372SA	LCVS-372SAN	LCVB-752SA
棚板	2枚	2枚	2枚
棚ダボ	8個	8個	8個
固定用ねじ(トラスφ4.0×50mm)	—	—	4本
固定用ねじ	B:4本	B:4本	—
キャビネット連結用ねじ(トラスφ4.0×25mm)	2本	2本	—

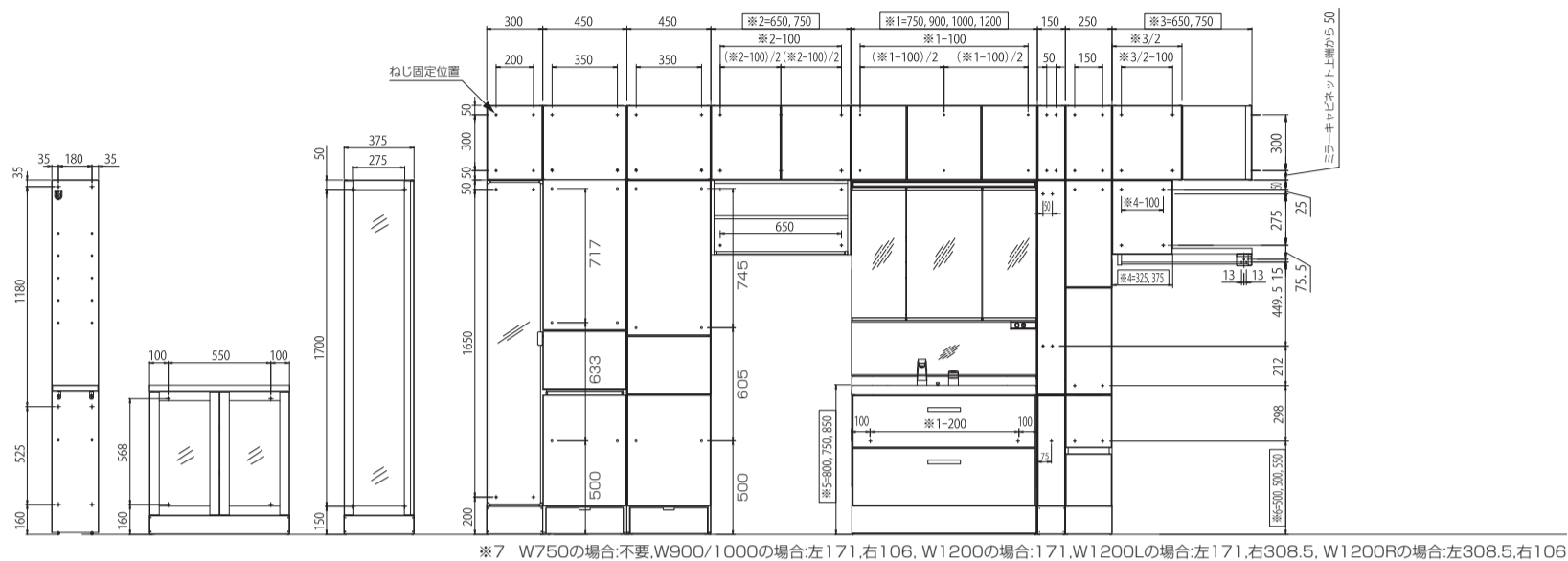
●トールキャビネット

	VJST[K]-155L(R)-J	VJST[K]-255-J VJST[K]-305-J VJST[K]-455-J	VJST[K]-305DL(R)-J VJST[K]-455DL(R)-J	VJS-305ML(R)-J
棚板	3枚	2枚	2枚	2枚
棚ダボ	12個	8個	8個	8個
固定用ねじ	A:2セット	B:6本	B:6本	B:4本
固定用ねじ(トラスφ4.0×50mm)	1本	—	—	—
キャビネット連結用ねじ(トラスφ4.0×25mm)	2本	2本	2本	2本
網カゴ	1個	—	1個	3個
タオル掛	—	—	1本	—
体重計収納	—	—	間口450のみ1個	—

●ランドリーキャビネット

	LCVKO-652 LCVKO-752
固定用ねじ	A:4セット

寸法図



取付前の確認

電気温水器・即湯器については、同梱の取付説明書をご覧ください。

1. 給水・給湯の確認

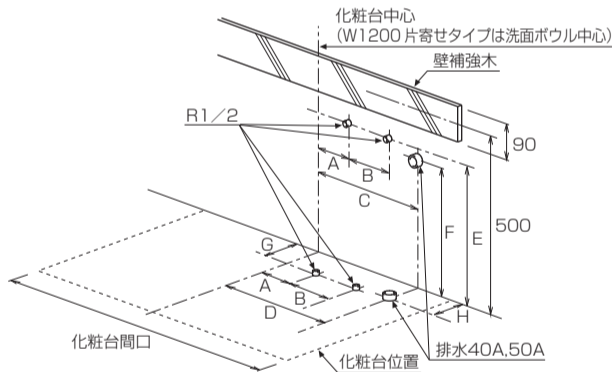
給水・給湯の条件、水栓金具の設置条件は別紙説明書（水栓金具に付属）をご覧ください。

2. 配管工事の確認

給水・給湯管および排水管が所定の位置に指定の給排水管仕様で取り出しているか確認してください。

注意

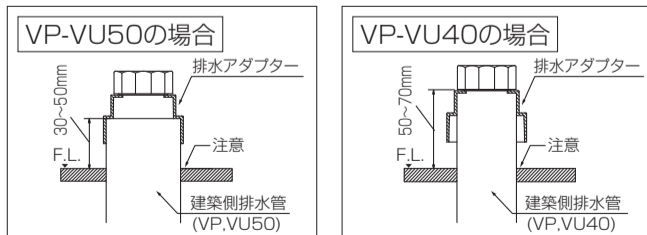
湯水を逆に配管しない。



	標準タイプ 即湯器取付時		電気温水器取付時	
	W750~W1200 W1200(L)(R)	W750~W1200 W1200(L)(R)	W750~W1200 W1200(L)(R)	W750~W1200 W1200(L)(R)
A	40	—	140	—
B	100	—	—	—
C	270	—	—	—
D	285	—	285	—
E	750	330	330	—
	800	380	380	—
	850	430	430	—
F	750	290※365	—	—
	800	340※415	—	—
	850	390※465	—	—
G	80	—	80	—
H	80	—	80	—

※G,J,J1~のとき

●床排水は下図のとおり取り出してください。



注意

建築側排水 (VP・VU 管) は必ず指定の取出寸法範囲内で取り出す。

※取出寸法が短いと、排水トラップと接続できず、漏水を引き起す恐れがあります。

- 壁排水の場合は市販の排水アダプターをご使用ください。
- 建築側排水管と開口部に隙間がある場合は、シリコンでシーリングしてください。

3. 壁面工事の確認

警告

取付強度を保てない場合、キャビネットが落下してケガをする恐れがあるため、下記事項が守られていることを事前に確認のうえ、取付を行う。

- この説明書に記載されている「キャビネットを取付可能な壁面」以外には、取り付けしないでください。記載の条件を満たさない場合は、壁を施工しなおしてください。
- 壁の不陸が 5mm/2m を越える場合は、必ず壁を施工しなおしてください。
- 壁固定は指定のねじを、指定本数使用してください。

乾式壁の場合

- 幅 90mm×厚み 30mm 以上の補強木を「ねじ固定位置」(寸法図参照) に必ず設けてください。
- 補強木は必ず柱・間柱・縦横木など建築躯体固定してください。また、補強木の固定部材は、キャビネットの固定強度 (図 1 乾式壁参照) と同等以上になるよう、種類・数を選定してください。
- 壁固定ねじが補強木の中心に 25mm 以上かかるように固定してください。
- 壁固定ねじを補強木に届かせるため、壁仕上げの総厚さは 12.5mm 以下にしてください。
- 石こうボードなどで補強木が見えない場合は、工務店さまに位置および固定方法を確認してください。さらに針刺しなどで壁固定ねじの位置に補強木の中心があることを確認してください。
- リフォームなどの現場で補強木位置が不明な場合は、石こうボードなどをはがして確認してください。また、補強木がない場合は必ず補強木を取り付けてください。

【壁面に補強木が取り付けられない場合】

- 取付壁全面に厚み 12mm 以上の JAS 規格品合板を強固に取り付ける。[建築工事]

湿式壁の場合

- コンクリートブロック壁の場合、中空部はモルタル詰めしてください。
- AY ボルトを壁本体に届かせるため、壁仕上げの総厚さは 20mm 以下にしてください。
- 壁固定ねじに合った AY ボルトを使用して、キャビネットを取り付けてください。

キャビネットを取付可能な壁面

図1 乾式壁

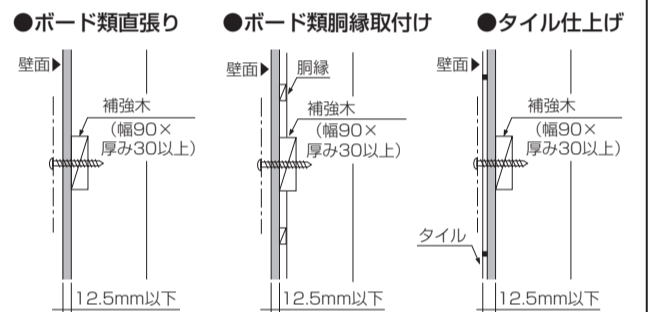
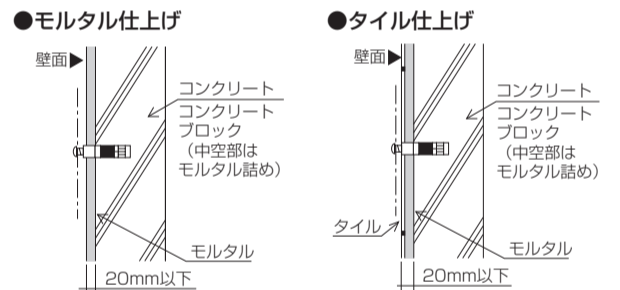


図2 湿式壁



※本文中のねじ固定に関する記載は、乾式壁の場合についてです。湿式の場合は、下記要領で固定を行ってください。

〈湿式壁の場合の取付方法〉

- ①AYボルトの位置を確認し、位置出しをします。
- ②壁にφ7.5mmの下穴をあけ、切粉をよく取り除きます。
※下穴は電動ドリルを使用し正確にあけてください。
- ③AYボルトを挿入してゴム筒を押さえてボルトを抜き取ります。
- ④キャビネットを壁面に当て、ねじ穴からボルトで固定をします。

(別途手配)

- ・洗面化粧台 (ニースペースタイプを除く)
AYボルト: #KB-4×60T(AY)
※トラスφ4×60mm 2本入り
- ・洗面化粧台 (ニースペースタイプ)
洗面化粧台以外 (アップパーキャビネットなど)
AYボルト: #KB-4X60SC(AY)
※皿φ4×60mm2本、皿ワッシャー2個、化粧キャップ2個入り
AYボルト: #KB-4X60WT(AY)
※トラスφ4×60mm2本、平ワッシャー2個入り
(取付穴φ7.5mm、深さ60mm以上)

4. 床面の確認

- 設置する床は水平で著しい凹凸や不陸がないことを確認してください。
- 床面は強固でガタツキ・たわみが生じないことを確認してください。
※キャビネットがガタついたり、取付精度 (納まり) が悪くなる恐れがあります。

化粧台の取付け

お願い

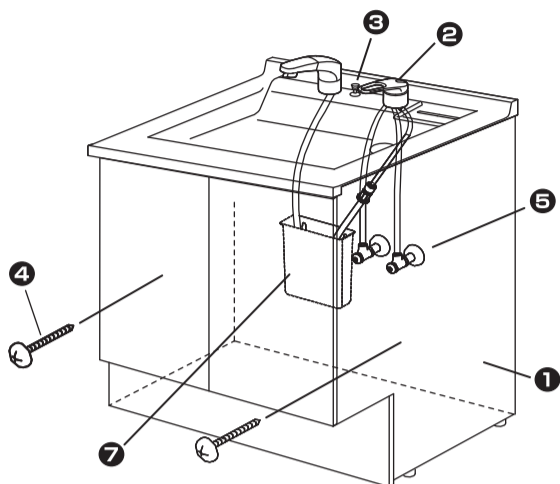
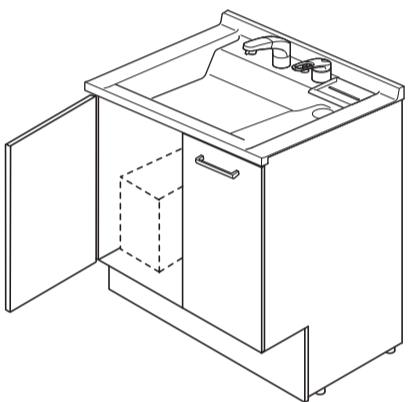
キャビネットの扉、アルミ枠タイプの扉は表面が傷つきやすいため、取扱いに十分注意する。

キャビネットを壁に固定する際、扉が邪魔になるときは、扉を外して作業することもできます。

※キャビネットの扉の着脱方法は、後述の「扉の取付方法」「扉の取外し方法」をご覧ください。扉を外した場合は、必ず扉を取り付けてください。

下記部材を取り付ける場合は、化粧台を壁固定する前に各部材同梱の取付説明書をご覧ください。

- 電気温水器を取り付ける
- 即湯器を取り付ける



1 ベースキャビネットの下準備

2 水栓金具本体の取付け

3 レリース（排水器具）の取付け

4 洗面化粧台の取付け

5 止水栓の取付け

6 排水トラップの取付け

7 水受けタンクの取付け

1 ベースキャビネットの下準備

●給水・給湯管および排水管の位置を確認してください。

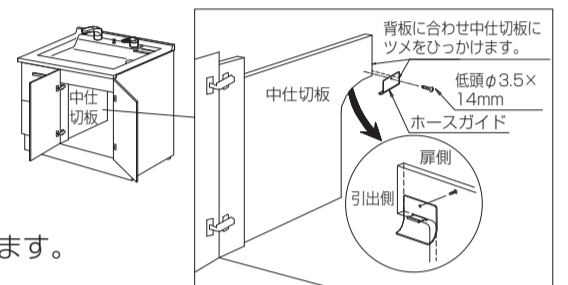
(P2「2. 配管工事の確認」の一覧表を確認してください)
また、給水・給湯管および排水管が大きく(±20mm以上)ずれている場合は配管工事をやり直してください。

●給水・給湯、排水の位置に合わせて化粧台に給水、給湯穴(φ30~45)、排水穴(φ55~60)をあけてください。

2 水栓金具本体の取付け

●ホースガイドの取付け

GR3H-905SY、
GR3H-905JY、
GJ2HT[K]-905S(F)Y、
GJ2HT[K]-905S(8)(F)Y、
J1HT1-905S(8)Y の場合
ホースガイドをキャビネット
中仕切り板の切欠きに取り付けます。



●水栓金具の取付け

水栓金具同梱の施工説明書をご確認ください。

⚠ 注意

レリースの取り付けは水栓金具を取り付けた後に行う。
※水栓金具が取り付けられなくなる恐れがあります。

3 レリース（排水器具）の取付け



※レリース本体は洗面ボウル裏面に取付いています。

⚠ 注意

取付け時にレリースワイヤーを無理に曲げたり、強く引っ張ったりしない。

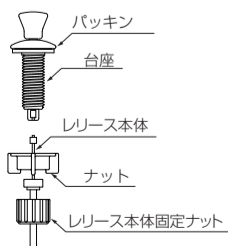
※排水栓の開閉不良の原因になります。

⚠ 注意

●強く締めすぎないようにする。
※排水口部分が破損し、漏水を引き起こす恐れがあります。

●ナット類は手でしっかりと締め付ける。
※締め付けが不十分だと漏水を引き起こす恐れがあります。

(1)レリース本体固定ナットを緩め、レリース本体、スリップワッシャー、ナットを台座から外します。

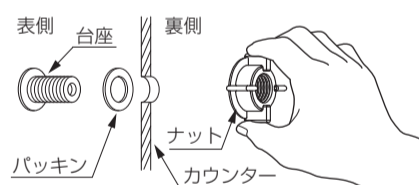


⚠ 注意

ツマミは絶対に外さない。

※一度外すとツマミが緩みやすくなり紛失する恐れがあります。

(2)洗面ボウルに台座を取り付けます。

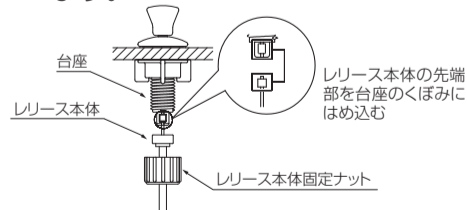


⚠ 注意

パッキンの取付位置を確認する。

※取付位置を誤った場合、漏水を引き起こす恐れがあります。

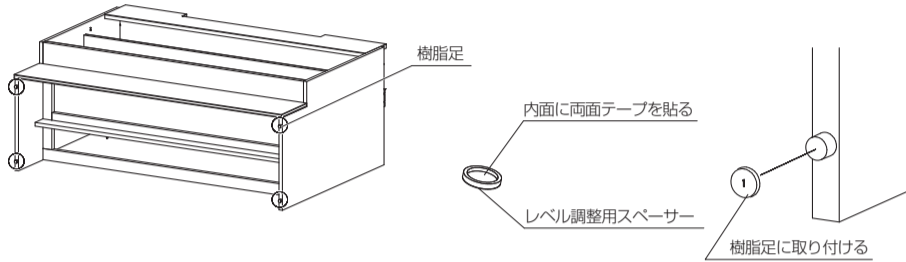
(3)レリース本体を台座にセットし、レリース本体固定ナットで固定します。



4 洗面化粧台の取付け

化粧台を指定の位置に仮設置します。床の水平が出ていない場合、付属の高さレベル調整用スペーサーで水平になるよう調整してください。調整方法は下記手順とおり行ってください。

- (1) 高さレベル調整用スペーサーは3種類の高さがあります。裏面の数字を確認し、水平になるように3種類の高さレベル調整用スペーサーで調整します。
①: 1mm、②: 2mm、③: 3mm
- (2) 高さレベル調整用スペーサーと樹脂足を両面テープで取り付けます。



⚠ 注意

高さレベル調整用スペーサーを取り付ける際は向きを確認し、数字が記載されている面を床面にして設置する。



数字記載面が床面設置となります。

- (3) 水平が出ていることを確認した後、固定用ねじで洗面化粧台を壁に固定します。

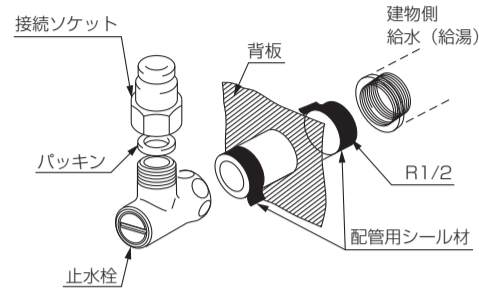
⚠ 注意

リリースワイヤーや水栓金具の給水・給湯ホースを化粧台と壁の間にはさまないように設置する。洗面化粧台を運ぶ場合は、洗面ボウルを持たない。
※破損する恐れがあります。

5 止水栓の取付け

止水栓はメンテナンス・流量調節に必要なため、必ず取り付けてください。
※止水栓は別途手配です。

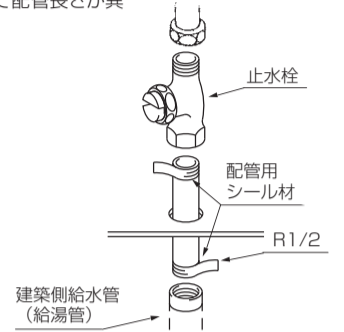
【壁給水の場合】



【床給水の場合】

止水栓長さは承認図をご確認ください。

※キャビネット高さ・水栓金具の種類によって配管長さが異なります。

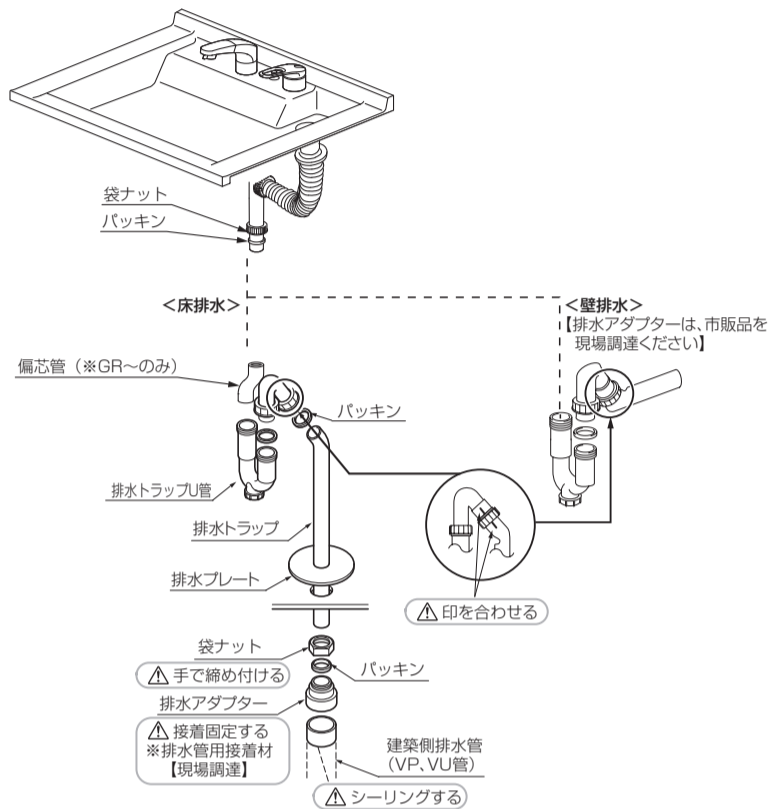
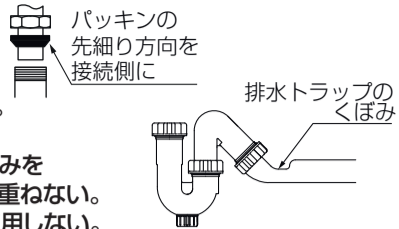


6 排水トラップの取付け



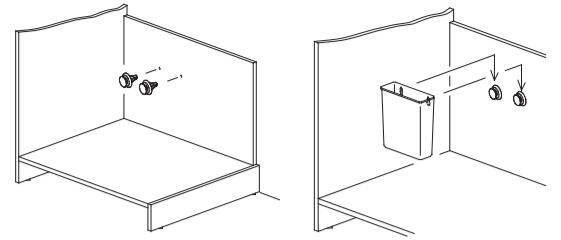
注意

- パッキンの向きに注意する。
- 管は奥に当たるまで差し込む。
- 壁排水時、排水トラップのくぼみを建築側の継手やアダプターと重ねない。
- 接着に耐熱塩ビ用接着剤を使用しない。
※漏水し、家財などを濡らす拡大損害発生の恐れがあります。
- 排水管に干渉するものがないか確認する。
※干渉していると、接続部が外れ漏水を引き起こす恐れがあります。
- 排水トラップのナットの位置を化粧台の奥側に向ける。
※収納物が配管に当たり漏水を引き起こす恐れがあります。

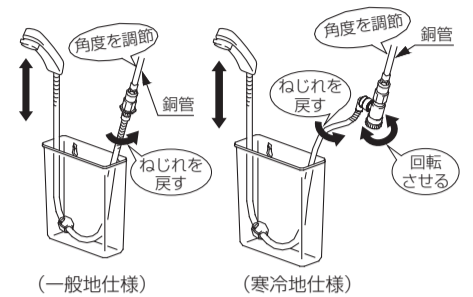


7 水受けタンクの取付け

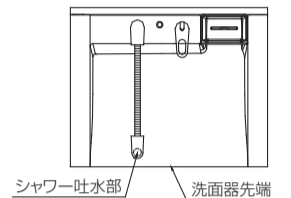
キャビネット背板のガイド穴2カ所に付属のクリップを差し込み、水受けタンクを取り付けます。



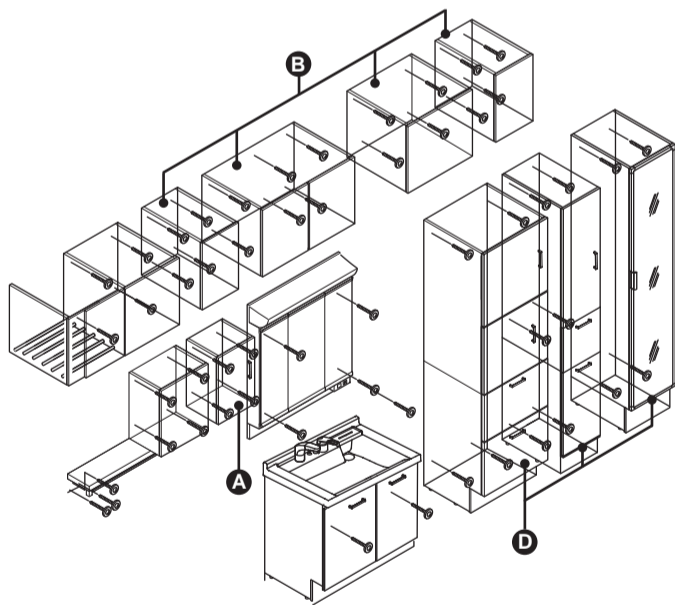
※水受けタンク取付後、ホースの動きを確認してください。
※ホースが止水栓と干渉したり、水受けタンクに収まりにくい場合は、次のように調節してください。
調節が不十分な場合、ホースが出し入れしにくい、ホースが引っ掛かって水受けタンクが外れる、などが発生する場合があります。



※シャワーホースの引き出し長さを確認してください。シャワー吐水部が洗面器先端よりもやや奥にあることを確認してください。
洗面器先端から外に出さないでください。
※極端に長いあるいは短い場合は、ストッパー位置を調節してください。



周辺キャビネットの取付け



注意

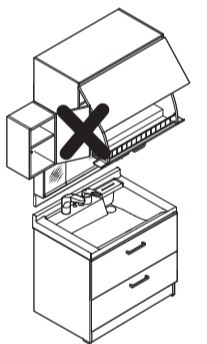
キャビネットの取付位置は、周囲の可動物と扉が当たらないことを確認する。
※使用中、扉が当たり破損・落下し、ケガをする恐れがあります。

アップパーキャビネット（間口調整付）、ランドリーキャビネット（間口調整付）、L型収納パックは、製品同梱の取付説明書をご覧ください。

A ミドルキャビネット・ランドリーキャビネットの固定

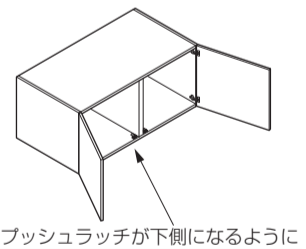
キャビネットの天面をミラーキャビネットの上端に合わせて設置し、固定用ねじで壁に固定します。

※アップパーキャビネット（ダウン機構付）の横に設置する場合は扉の吊元がアップパーキャビネット（ダウン機構付）の逆側にくるように設置して下さい。アップパーキャビネット（ダウン機構付）の収納部を降ろした場合、扉が干渉します。



B アップパーキャビネットの取付け

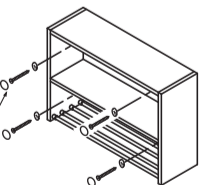
- (1)ミラーキャビネットまたはミドルキャビネット・トールキャビネットの上に設置し、固定用ねじで壁に固定します。
- (2)隣接するアップパーキャビネットがある場合は連結用ねじで固定します。



C ランドリーキャビネットの取付け

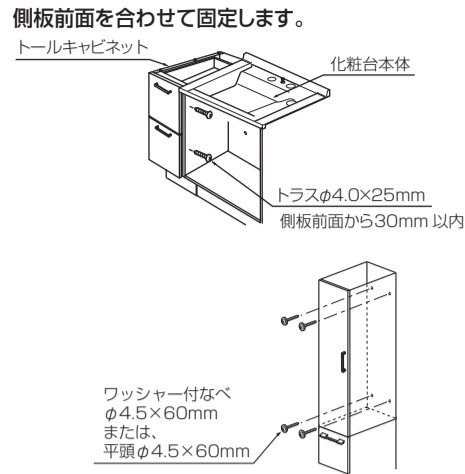
キャビネットの上面をミラーキャビネットの上端に合わせて設置し、固定用ねじで壁に固定します。

ワッシャー
皿φ4.5×60mm
化粧キャップ
または、平頭
φ4.5×60mm
化粧キャップ



D トールキャビネットの取付け

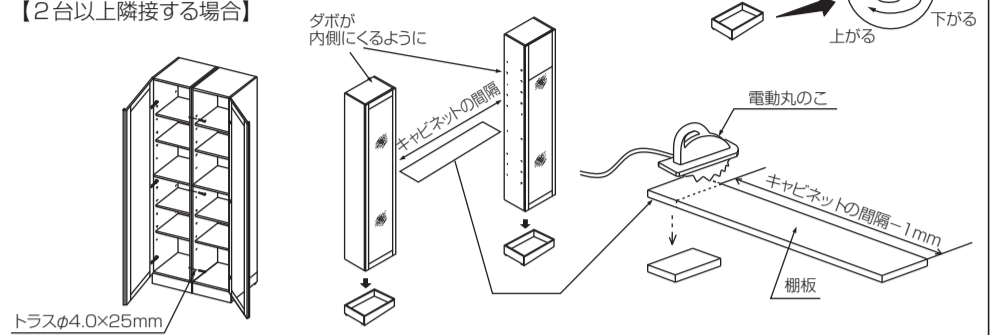
- (1) 下部キャビネットを化粧台の隣に仮設置します。
- (2) けこみの高さが合わない場合はトールキャビネット(下部)のアジャスターボルトで調節してください。
- (3) キャビネット同士を連結用ねじで連結します。
- (4) 下部キャビネットを固定用ねじで壁に固定します。
- (5) 下部キャビネット上面のダボに上部キャビネットをはめ込みます。
- (6) 上部キャビネットを固定用ねじで壁に固定します。



F 対面収納キャビネット(トールタイプ)の取付け

- (1) アジャスターボルトでキャビネットの水平を調節します。
- (2) キャビネット部の上下方向を確認して、けこみ部に取り付けます。
- (3) 固定用ねじで壁に固定します。

【2台以上隣接する場合】



※2台以上隣接するプランで、キャビネット間に隙間が生じる場合は、連結用ねじで連結します。(蝶番の下方、上中下3カ所)

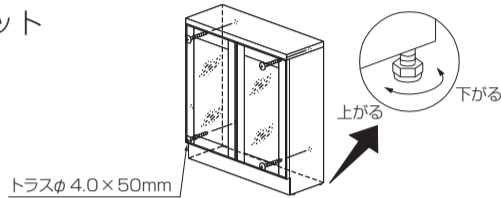
⚠ 注意

扉の吊元を確認し壁固定する。(LR 共通仕様です)

※棚板(BB-LCW-T130)が付く場合
ダボ穴が内側へくるようにキャビネットを設置してください。キャビネットのダボ穴にダボを差し込みます。棚板をダボの上に設置します。
棚板をカットする場合はキャビネットの間隔-1mmでカットします。

E 対面収納キャビネット(ベースタイプ)取付け

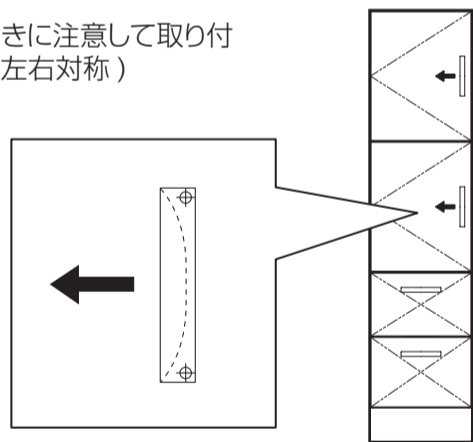
- (1) アジャスターボルトでキャビネットの水平を調節します。
- (2) 固定用ねじで壁に固定します。



取っ手の取付け

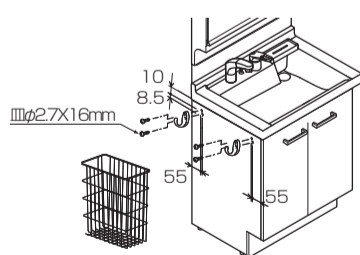
取っ手が同梱されているキャビネットの場合は、取っ手を取り付けます。
図の取っ手を縦に取り付ける場合は、向きに注意して取り付けます。(図は左開きの場合。右開きは左右対称)

対象の取っ手
(GRS、GR1Sの場合)

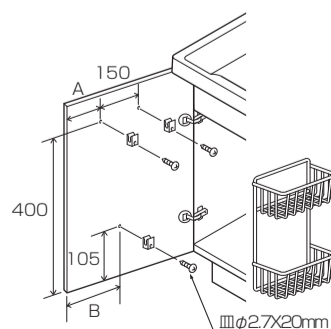


オプション品の取付け

- サイドバスケット(BB-TD1-23)の取付け
右図の位置に同梱のフックを固定用ねじで取り付けした後、バスケットを引っ掛けます。



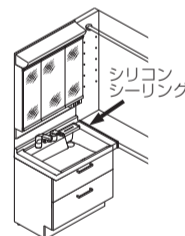
- 扉用バスケット(BB-EX5)の取付け
右図の位置に同梱のフックを固定用ねじで取り付けした後、バスケットを掛けます。



間口	キャビネットタイプ	A寸法	B寸法
750	扉タイプ	60	135
750	引出タイプ	100	175
900	扉引出タイプ	60	135
1200L(R)	扉引出タイプ	60	135
1000	扉引出タイプ	60	135
1200	扉引出タイプ	60	135

洗面ボウル周囲のシール

- 洗面ボウルと壁あるいは隣接キャビネットとの合わせ部をシリコンでシーリングします。
- L型収納パックと隣接する場合は、棚板と洗面ボウルとの合わせ部にもシリコンシーリングしてください。



⚠ 注意

必ずシーリングする。
※合わせ部から水が浸入しキャビネットや壁・床を傷める恐れがあります。

取付後の確認

- 固定用ねじが十分に締まっていること。
- ガタツキ・壁とキャビネットとの隙間がないこと。
※ガタツキや隙間がある場合は、ねじ位置を変えて取り付け直してください。
- 扉のチリがそろっていること。
※そろっていない場合は、後述の調節方法で調節します。
- きれいに清掃する。
※柔らかいぬれた布で拭き取ってください。
※排水栓に付着した汚れも確実に拭き取ってください。
- 水栓金具の取付確認を行うこと。
※水栓金具の施工説明書記載の「施工後の調節」や「引渡し前の確認」などをよく読み、取付確認をしてください。
- 漏水確認を行うこと。
※排水栓を開け、水を一度に排出し、トラップ、排水管の各接続部から水漏れのないことを確認してください。
- 吐水口の掃除をする。
※通水確認時に吐水口の掃除を実施してください。

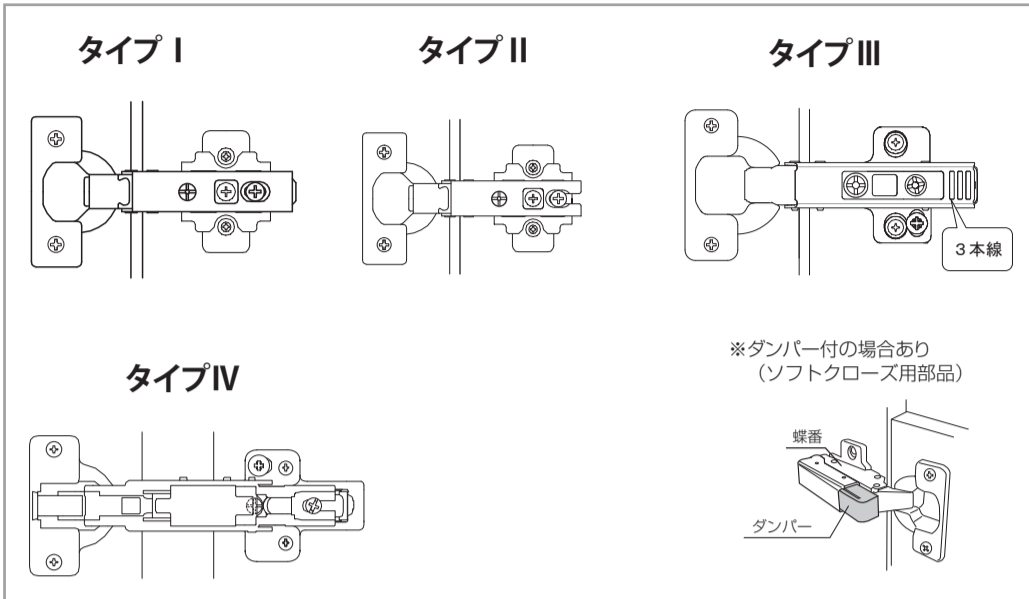
お願い

取付後は洗面ボウル表面を養生し、後の工事などで傷つかないようにする。
※洗面ボウルが傷つくと、補修しても完全に元の状態には戻りません。

調節方法

《扉の調節》

●蝶番種類を確認し、調節してください。

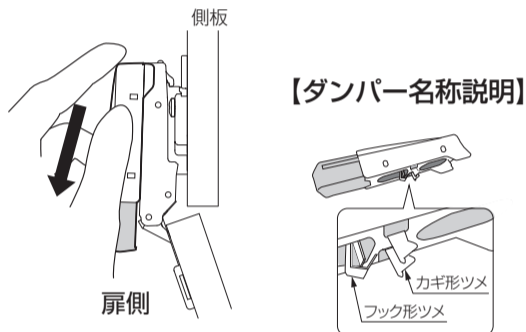


○タイプⅢ：ダンパー付の場合

下記方法にてダンパーを取り外し、蝶番の調節を行います。
※調節後は、同じ位置に取り付け直してください。
※保護用手袋を着用してください。

■ダンパー取外し

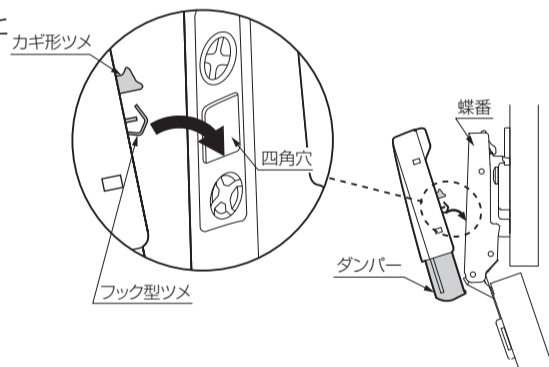
扉側へスライドさせるように引く。



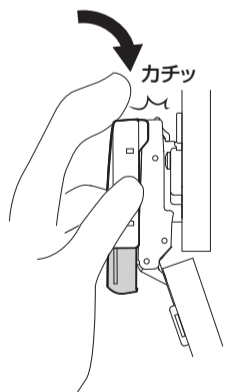
■ダンパー取付け

① フック形ツメを蝶番の四角穴手前に当てる。

※かぎ形ツメを優先に差し込むと入りません。



② ダンパーを蝶番にまっすぐ合わせながら、奥側から「カチッ」と音がするまで押し込む。

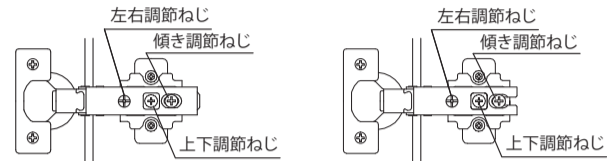


- 扉の調節は、蝶番のねじで行います。扉を取り外す必要はありません。
- 両開きの場合で片方の扉だけで調節できないときは、左右の扉を交互に調節してください。
- 調節は、必ず手回しドライバーを使用してください。

⚠ 注意

- 調節ねじ以外のねじを緩めたり、外したりしない。
- 調節後は、緩めたねじがしっかり締め付けられていることを確認する。
※扉が落下してケガをする恐れがあります。

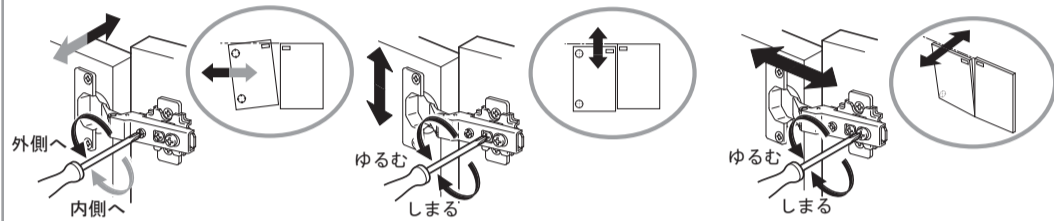
タイプⅠ、Ⅱ



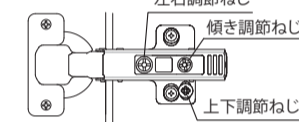
左右の調節 (内側4mm、外側1mm)
左右調節ねじを回し、扉を調節する。

上下の調節 (±1.5mm)
① 上下調節ねじを軽く緩め、扉を動かして調節する。
② 上下調節ねじを締め直す。

前後の傾き調節 (前2mm、後1mm)
① 傾き調節ねじを軽く緩め、扉を動かして調節する。
② 傾き調節ねじを締め直す。



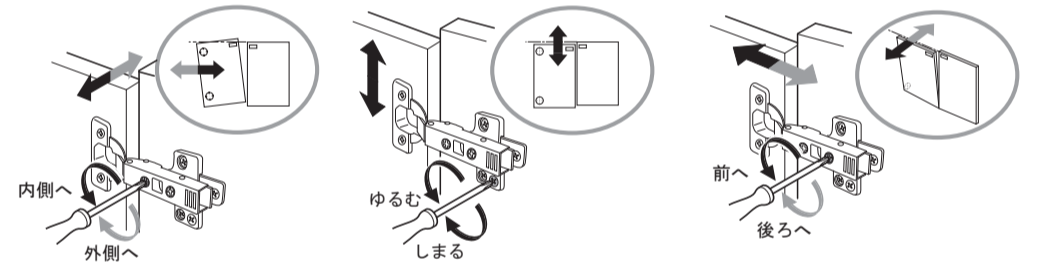
タイプⅢ



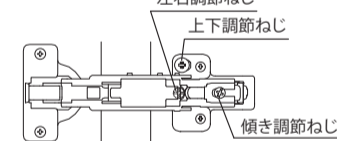
左右の調節 (±2mm)
左右調節ねじを回し、扉を調節する。

上下の調節 (±2mm)
① 上下調節ねじを軽く緩め、扉を動かして調節する。
② 上下調節ねじを締め直す。

前後の傾き調節 (前2mm、後1mm)
傾き調節ねじを回し、扉を調節する。



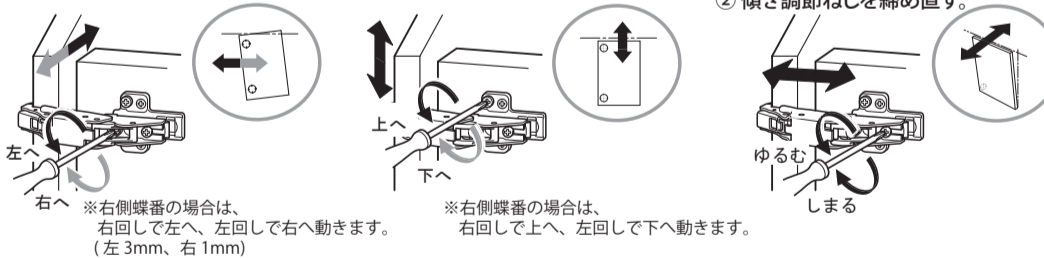
タイプⅣ



左右の調節 (右3mm、左1mm)
左右調節ねじを回し、扉を調節する。

上下の調節 (±2mm)
上下調節ねじを回し、扉を調節する。

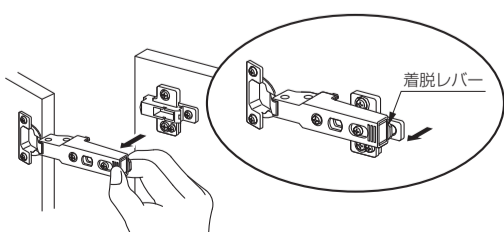
前後の傾き調節 (前3mm、後1mm)
① 傾き調節ねじを軽く緩め、扉を動かして調節する。
② 傾き調節ねじを締め直す。



《扉の取外し・取付け》

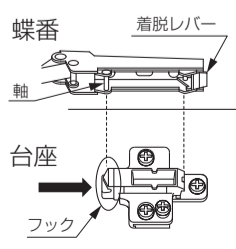
■取外し

蝶番の着脱レバーを手前に引きながら取り外す。



■取付け

蝶番の軸を台座のフックに矢印側から引っ掛ける。



⚠ 注意

扉の取付け後は蝶番が台座へしっかりはまっていることを確認する。
※扉の外れや落下によりケガをする恐れがあります。

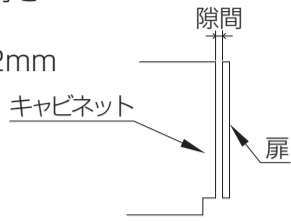
着脱レバーをA部に合わせて「カチッ」と音がするまで押す。



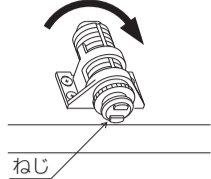
プッシュラッチの調節

洗面化粧台(GJ,J1)・アップーキャビネット・ミドルキャビネット・ツールキャビネットの場合

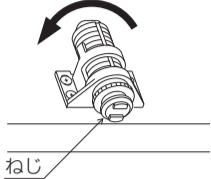
扉と本体の隙間を確認します。
基準値：隙間2mm



●扉の隙間が大きい場合。
プッシュラッチのねじを右に回します。



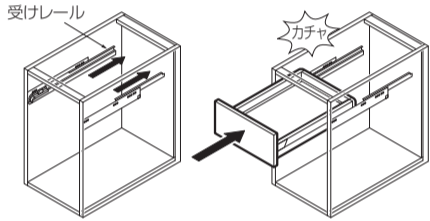
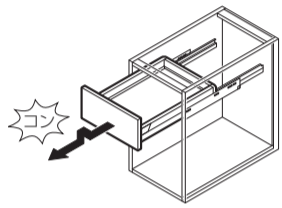
●扉の隙間が小さい場合。
プッシュラッチのねじを左に回します。



引出し(フルスライド、ツールキャビネットランドリータイプ)の取付け・取外し、チリ調節

■引出しの取外し

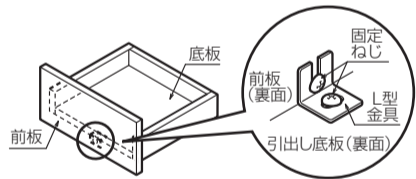
引出しを止まるところまで引き出し、一度少し上に持ち上げ(コンという音がしてロックが外れます)てから、さらに手前へ引き出します。



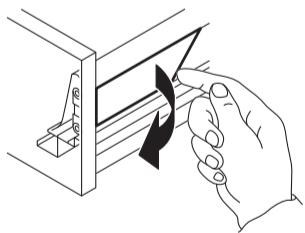
■前板の調節

●引出し調節前の準備

引出し前板裏面と引出し底板の間に、L型金具が取り付けられています。引出し調節(前板の傾き調節以外)を行う際は、必ず固定ねじを緩めて(金具が動く程度)から行ってください。また、調節完了後は必ず固定ねじを締め付け直してください。

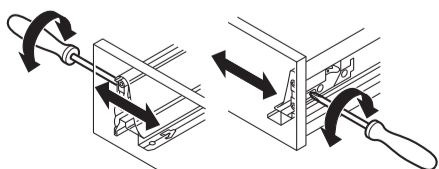


●引出し横の化粧カバー取り外し



◀左右の調節▶

図のように、左右調節ねじを回して調節します。
右へ移動する場合：
右側ねじを右へ回し、左側ねじを左へ回す。
左へ移動する場合：
右側ねじを左へ回し、左側ねじを右へ回す。
※調節は、引出し本体の左右共に行ってください。
※調節範囲：左右方向へ各1mm(計2mm)程度

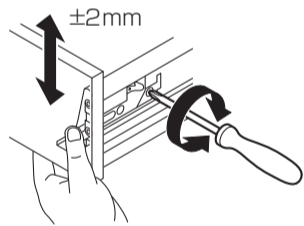


■引出しの取付け

①ユニット本体側の受けレールを奥まで押し込みます。
②引出しを受けレールに乗せ、奥まで押し込みます。その際、カチャと音がしてロックされます。
※取り付け後は、数回引出しを開閉させ正確に取り付けられている(ガタツキ・異音がしないか)ことを確認します。

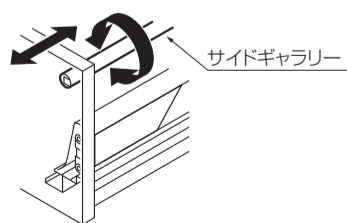
◀上下の調節▶

図のように、上下調節ねじを回し調節します。
※調節範囲：上下方向へ各2mm程度



◀前板の傾きの調節▶

ギャラリ付き引出しのみ対応可能) 図のように、サイドギャラリ(パイプ部)を回し、前板の傾きを調節します。
前板を手前へ倒す場合：
左へ(前板正面から見て)回す
前板を後方へ倒す場合：
右へ(前板正面から見て)回す
※サイドギャラリ後方の樹脂部品(グレー色)のねじ部に隙間が残りますが、この隙間は調節しるです。



引出し(引出しタイプ(GR)、ツールキャビネット)の取付け・取外し、調節

■引出しの取外し

①引出しを最後まで引き出します。
②引出しを持ち上げて外します。

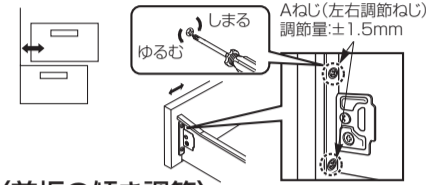
■引出しの取付け

取外しと逆の手順で取り付けます。

■前板の調節

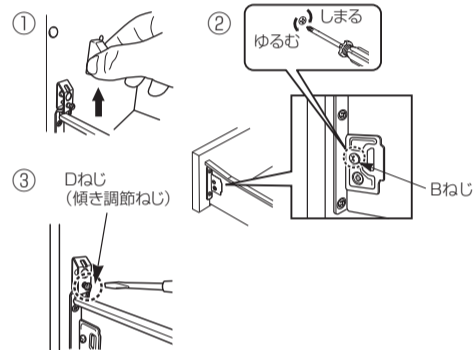
◀左右の調節▶

①Aねじを4カ所すべて緩めます。
②引出前板を左右に動かして調節します。
③①で緩めたAねじを固く締め付けます。



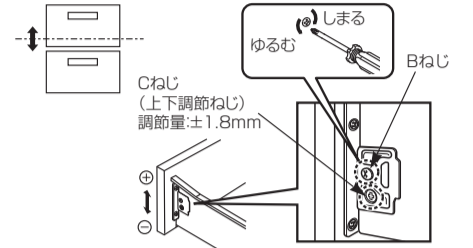
◀前板の傾き調節▶

①カバーを上へ引き抜いて外します。
②Bねじを緩めます。(左へ回す)
③Dねじを回して調節します。
手前に倒す場合:ねじを右に回す
後ろに倒す場合:ねじを左に回す
④②で緩めたBねじを固く締め付けます。
⑤①で外したカバーをはめ込みます。



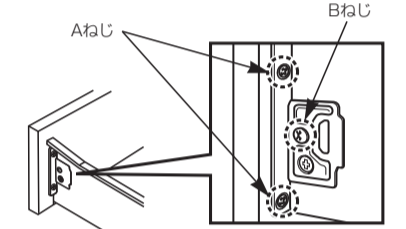
◀上下の調節▶

①Bねじを緩めます。(左へ回す)
②Cねじを回して調節します。
上に動かす場合:ねじを右に回す
下に動かす場合:ねじを左に回す
③①で緩めたBねじを固く締め付けます。



⚠ 注意

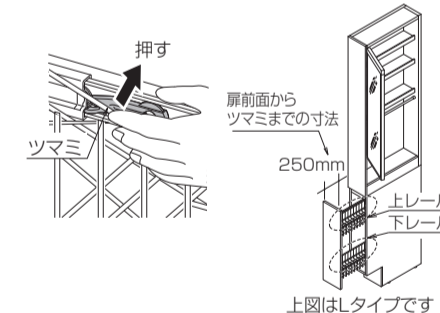
調節後、AねじBねじが固く締まっていることを確認してください。
※ねじが緩んでいると、引出前板が外れて落下し、ケガをする恐れがあります。



引出し(ツールキャビネット(間口150)、引出しタイプ(GJ,J1))の取付け・取外し、調節

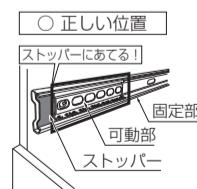
■引出しの取外し

①引出しを最後まで引き出します。
②上下レールのツマミを押し、そのまま手前に引き出します。



■引出しの取付け

①キャビネット本体側のレールを手前に引き出し、引出し側のレールと合わせます。
※レール内部の可動部の位置に注意して取り付けてください。ずれた位置で取付けた場合、レールが破損し、動作不良の原因となる恐れがあります。



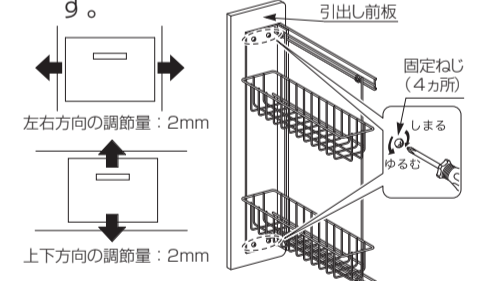
②引出しを最後まで押し込みます。

⚠ 注意

取付後は、数回開閉させ、正しく取り付けられていることを確認する。
※使用中に外れてケガをする恐れがあります。

■前板の調節

①前板固定のねじを緩めます。
②引出し前板を上下左右に動かして、正しい位置にします。
③①で緩めたねじを固く締めつけます。



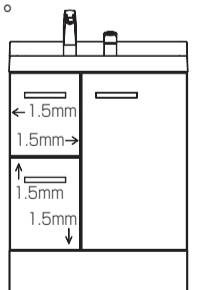
■引出しタイプ(GJ,J1)の場合

■引出しの取外し

引出しタイプ(GR)と同様の手順で取り付け、取り外します。

■前板の調節

①引出しを取り外します。
②図の位置にある左右中央の固定ねじを手もみドライバーで緩めます。
③左右上下に調節します。
④手もみドライバーで固定ねじを締め付けます。



⑤引出しを取り付けます。
⑥正しい位置になるまで繰り返します。

